

○運

長閑なる、
里道の、
來し方を、
われは泣きぬ。
ふと見れば、
縁缺けし、
ちりあぐた、
おくぶくと、
あはれうと。
おゝ椀よ!!
聞かまほし、
思ひ見る、
人の家の、
暖き、
家人に、
新玉の、
平和なる、
饗應の、
低き鼻、
歡樂の、
ひたすらに、
華かに、
あゝ、さるを、

命

荒木 經明

小春日和や、
土橋に立ちて、
思ひつゞけつ。
浮きつ沈みつ、
椀の死骸、
背に被りて、
流れ來りぬ。
見るも無殘、
汝が歴史を。
『汝も昔は、
光る座敷に、
慈愛を受けて、
愛でられつらん、
年の始や、
村祭りには、
華と成りてぞ、
蠢かしつ。
密に憧憬れ、
幸を誇りて、
生を送りき。』
今の姿は……、

われは泣きぬ。
さはれ、汝、
春宵の、
知らずや……。

知るや榮は、
夢的一幕、

いらへがもせて、
下へ下へ……。
見わし瞬間!!
姿隠しぬ。
いづちゆくらん、
運命の神は、
器を翻弄びて、
擅にす、
靈の人をや、
われは涕きけり。
川の面見つめつ……。

○銀 世界

莖つみにし野邊や此處、
黄金の色にはこりたる、
甫公英いつか白銀の、
臺となりて残りたり、
螢たづねし岸や此處、
玉と亂れしその光り、